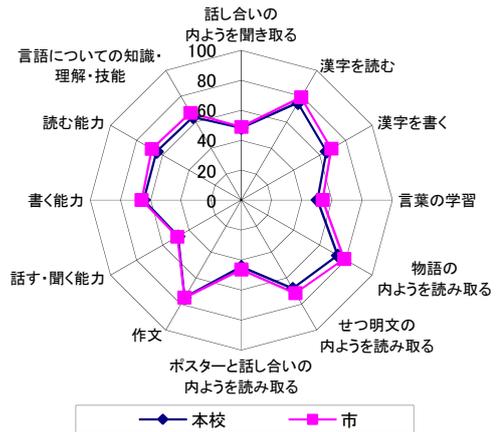


# 宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	48.2	48.8
	漢字を読む	75.0	79.3
	漢字を書く	65.1	68.8
	言葉の学習	50.5	53.8
	物語の内ようを読み取る	73.7	78.7
	せつ明文の内ようを読み取る	68.1	71.6
	ポスターと話し合いの内ようを読み取る	44.5	46.3
	作文	74.9	75.1
観点別	話す・聞く能力	48.2	48.8
	書く能力	64.6	65.9
	読む能力	64.7	68.4
	言語についての知識・理解・技能	64.0	67.2



## ★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	平均正答率が48.2%と低い数値になっているが、市の平均正答率も48.8%と同じように低く、問題の難易度が高かったと思われる。特に、話の中心に気を付けて聞く問題では、平均と比べても低かった。また、互いの考えの相違点や共通点を聞き取り、問題文に当てはまるように記述する問題の正答率が市の平均と比べても低かった。	日常生活を通して、聞く態度の育成に努める。また、国語や会話科の授業だけでなく、様々な場面で話し手の意図を考えながら、集中して話が聞けるように指導していく。さらに、授業中や朝の会のスピーチなど、自分の意見や考えを発表する機会を積極的に設け、聞き手に自分の意図をしっかりと伝えるには、どのような工夫が必要か考えながら話せるように指導していく。
漢字	正答率は、漢字の「読み」「書き」共に市の正答率よりも低い。特に、3年生で学習した「真実」「柱」の読みや「屋根」「等しい」の書きの正答率が低かった。4年生で学習した漢字の読みの正答率も市の平均より低く、特に「要望」の正答率が低かった。	漢字の読み書きについては、ドリルや漢字チャレンジ、家庭学習による練習などで、繰り返し学習を行い、基礎・基本の定着を図る。また、現学年の漢字だけでなく、前学年までに習った既習の漢字の練習も行うようにする。さらに、日頃から、文章を書く中で、積極的に既習の漢字を使うように指導していく。
言葉の学習	正答率は、市の正答率よりも低かった。ことわざの使い方を問う問題と漢字辞典の使い方の問題の正答率が低かった。漢字辞典の一部を参考に部首名・画数を答える問題では、2項目を完答するのが難しかったと思われる。	日頃から漢字辞典を使う機会を増やし、漢字辞典の使い方の習熟を図る。また、漢字の学習では、熟語や短文を作る活動なども取り入れ、いろいろな漢字の読み方や使い方が身につくように指導していく。
物語の内ようを読み取る	平均正答率は、73%で市の平均正答率よりも低かった。登場人物の気持ちや気持ちの変化を読み取る問題が多かったが、どれも市の平均正答率よりは低かった。	物語の学習では、登場人物の気持ちや様子がわかる言葉や文章表現に気をつけながら読むよう指導していく。また、人物の様子や気持ちの変化を表や図などにしてまとめることで、読み取りを深められるようにする。さらに、読み聞かせや読書の時間に、教科書で紹介されている本や必読図書など児童が興味のもてる物語を紹介し、読書を奨励する。
せつ明文の内ようを読み取る	正答率は、市の正答率よりも低かった。文と文のつながりに注意して文章を読み取る問題の正答率は、86%と高かったが、文章の細かい点に注意して読み取る問題の正答率は59%、目的や必要に応じて文章の内容を読み取る問題の正答率は41%でかなり低かった。	説明文の学習では、形式段落の要点や文章全体の要点をまとめる学習を丁寧に行うとともに、接続語や文の語尾などに着目して、段落相互の関係を理解させることにも重点をおいて指導していく。また、国語の学習だけでなく、朝の読書の時間を通して、説明文を読む機会を増やしていく。
ポスターと話し合いの内ようを読み取る	正答率は、44.5%でかなり低いが、市の正答率も46.3%と低く、難易度の高い問題であったと思われる。資料を読み取った上で、適切な言葉を使ってポスターの文を書き直す問題の正答率が27.5%と特に低かった。	国語の時間だけでなく、社会や総合などの学習を通して、自分で調べたり、資料から読み取ったりしたことを発表する機会を多く設けることで、相手がわかりやすいように適切な言葉を使って説明する力を身につけさせていく。
作文	正答率は、市の正答率よりもやや低かった。二段落構成で文章を書くことは、市の平均正答率が65.3%に対して本校の平均正答率は76.1%と大幅に平均を上回り、段落に気を付けて書くことは定着していることが分かる。指定された長さで文章を書くこと、自分の意見とその理由を区別して書くことは市の平均正答率よりもやや低かった。	題名に即した内容の文章を書く力はだいたい身につけていると思われるので、内容によって、適切に段落に分けたり、決められた文字数で書いたりできるように、条件をつけた作文を課題に出し、繰り返し書く練習をさせることで、条件にあった文章が書けるように指導していく。